

令和6年能登半島地震に係る 災害対応検証会議(第1回)

令和 6 年 5 月 28 日

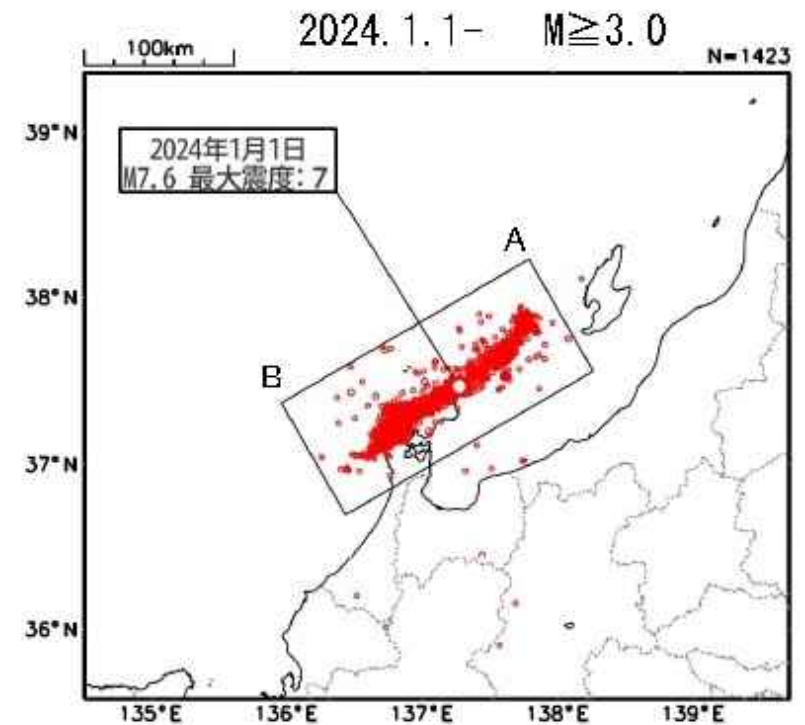
富山県

- 1 令和6年能登半島地震の概要
- 2 県内の被害状況
- 3 県の対応等
- 4 検証の進め方、スケジュール(案)
- 5 検証項目(案)

令和6年能登半島地震の概要

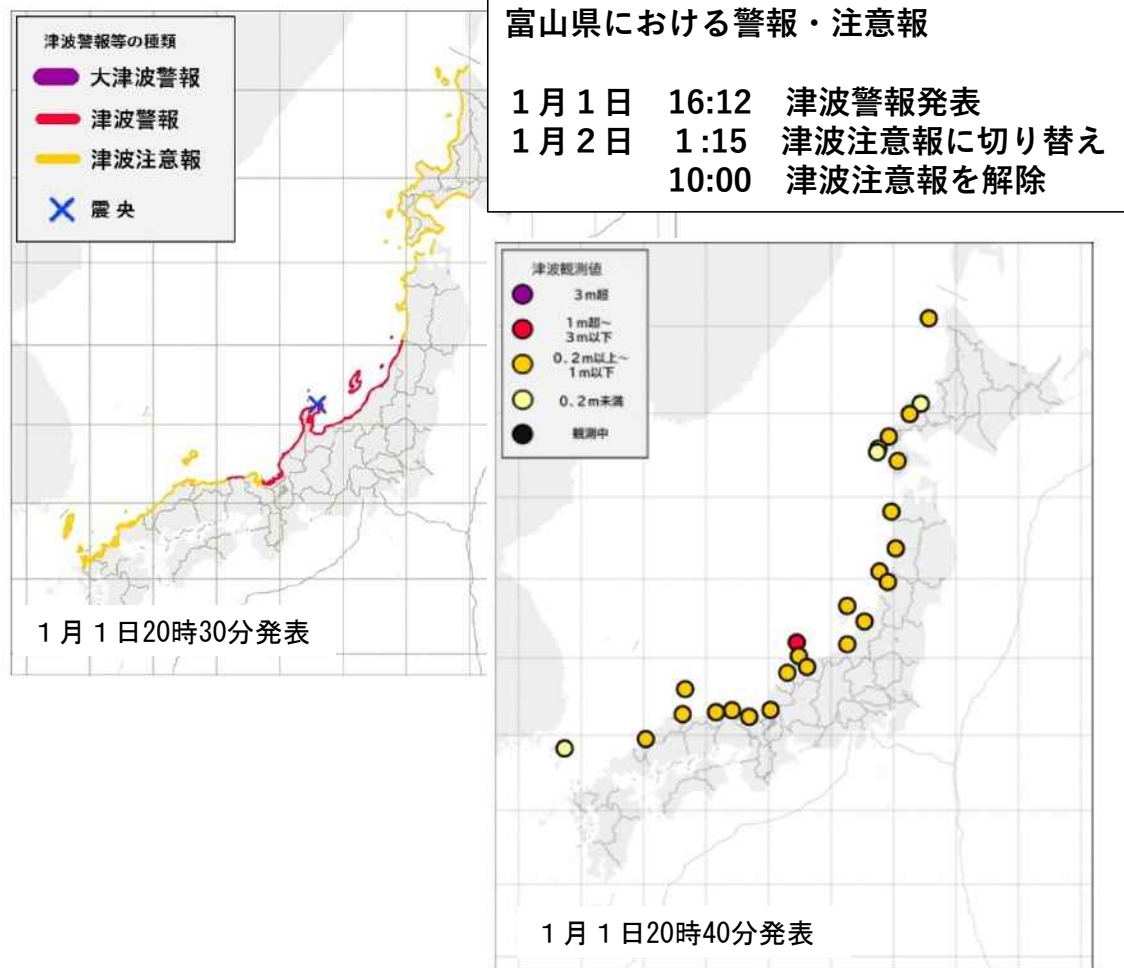
(1) 地震

- ・発生時刻 令和6年1月1日 16時10分
- ・震源地 石川県能登地方
- ・地震の規模 マグニチュード7.6
(最大震度7：石川県(輪島市、志賀町))
- ・県内最大震度
5強：富山市、高岡市、氷見市、小矢部市、
南砺市、射水市、舟橋村(6市1村)
5弱：滑川市、黒部市、砺波市、上市町、
立山町、朝日町(3市3町)
4：魚津市、入善町(1市1町)



出典：
気象庁報道発表『「令和6年能登半島地震」について（第20報）』

(2) 津波



【主な観測値】 1月1日20時40分発表

予報区名 (観測点)	第一波 到達時刻	最大波	高さ
石川県加賀 (金沢)		1日 19:09	0.9m
山形県 (酒田)	1日 17:12	1日 19:08	0.8m
富山県 (富山)	1日 16:13	1日 16:35	0.8m
北海道日本海沿岸南部 (瀬棚港)	1日 17:54	1日 18:26	0.6m
福井県 (敦賀港)	1日 17:33	1日 20:28	0.5m
山形県 (飛島)	1日 16:57	1日 17:52	0.4m
新潟県上中下越 (柏崎市鯨波)	1日 16:31	1日 16:36	0.4m

県内の被害状況 ①

(1) 人的被害 (R6.5.21時点)

- ・ 49名 (重傷5名、軽傷44名)

(2) 住家被害 (R6.5.21時点)

- ・ 18,974棟
全壊：245棟、半壊：756棟、
一部破損：17,799棟、未分類：174棟

(3) 避難所の開設状況 (R6.5.21時点)

- ・ 避難所数 417箇所 (R6.1.26ですべて閉鎖)
※津波警報の影響で、最大で約15,000人が避難

(4) 水道施設の状況 (R6.5.20時点)

- ・ 6市18,937戸で断水
(R6.1.21ですべて解消)

(5) 公共土木 (R6.5.7時点)

- ・ 335箇所 (県115箇所、市町村220箇所)
道路、河川、砂防、港湾、公園、下水道、橋梁、
海岸(港湾)

(6) 農林水産 (R6.5.20時点)

- ・ 2,800箇所
農業：92箇所、土地改良：2,433箇所、
森林林業：62箇所、水産業：213箇所

(7) 文化財関係 (R6.5.20時点)

- ・ 66件
(国指定:21件、国登録:28件、国選定:3件、県指定:14件)

(8) 観光需要 (R6.1.31時点)

- ・ 1月分の推計(平年同期との比較)として、
▲86,209人、▲20億1,366万円 の需要減

県内の被害状況 ②



倒壊した家屋（氷見市）



液状化による管水路・農道の被災（氷見市）



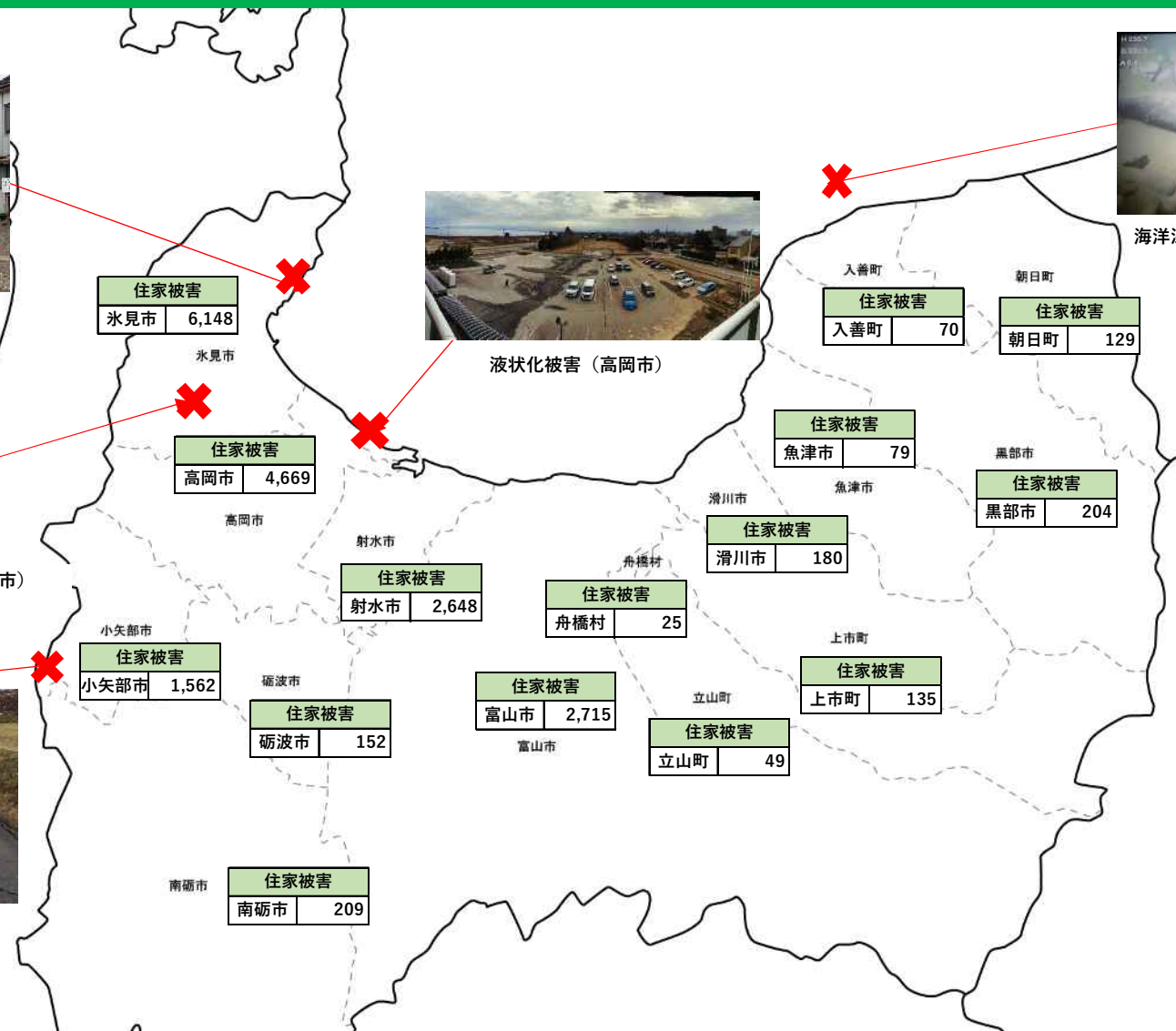
崩落した国道359号（小矢部市）



液状化被害（高岡市）



海洋深層水取水管断絶（入善町）



(R6.5.21現在)

県の対応等 ①

月 日	対 応 等
1 月 1 日（月）	・ 災害対策本部設置 ・ 第 1 回災害対策本部員会議開催 ・ 災害救助法適用（13市町村） ・ 自衛隊への災害派遣要請
2 日（火）	・ 第 2 回・第 3 回災害対策本部員会議開催
3 日（水）	・ 第 4 回災害対策本部員会議開催
4 日（木）	・ 第 5 回災害対策本部員会議開催 ・ 被災者支援パッケージの発表
9 日（火）	・ 第 6 回災害対策本部員会議開催 ・ 被災者生活再建支援法適用（氷見市）
11 日（木）	・ （国）激甚災害（本激）及び特定非常災害の指定
12 日（金）	・ 1 月補正予算専決処分
18 日（木）	・ 被災者生活再建支援法適用（小矢部市）
19 日（金）	・ （国）非常災害の指定

県の対応等 ②

月 日	対 応 等
1 月20日（土）	・ 内閣府防災担当大臣へ要望
24日（水）	・ 国土交通省、農林水産省、総務省、経済産業省の各大臣への要望
25日（木）	・ 被災者生活再建支援法適用（射水市） ・ （国）「被災者の生活と生業支援のためのパッケージ」発表
26日（金）	・ 「災害対策本部」を「復旧・復興本部」へ切替え
30日（火）	・ 令和6年能登半島地震による宅地液状化災害を受けた勉強会設置
2 月2日（金）	・ 第1回復旧・復興本部員会議開催 ・ 被災者生活再建支援法を全市町村に適用
6日（火）	・ 2月補正予算専決処分
27日（火）	・ 第2回復旧・復興本部員会議開催 ・ 富山県復旧・復興ロードマップ骨子を公表
3 月18日（月）	・ 内閣総理大臣、官房長官へ要望
27日（水）	・ 第3回復旧・復興本部員会議開催 ・ 富山県復旧・復興ロードマップ（中間とりまとめ）を公表

検証の進め方

令和5年度

令和6年度

7年度以降

災害対応の 振り返り

【県】
庁内振り返り会議
(主な意見)
参集体制
初動対応・本部体制
など

【市町村】
市町村防災担当課長
振り返り会議
(主な意見)
避難所の開設・運営
住民の避難行動
物資の備蓄体制など

課題項目の整理

改善
至急対応が必要

災害対応検証事業

人流データの分析

携帯電話の位置情報に基づき、元日の地震発生後の人流データを分析し、適切な行動がとれていたかを検証

県民アンケートの実施

能登半島地震発生時の避難行動や県民の防災意識の変化などを把握

災害対応の検証

有識者の参加による、今回の地震対応を検証するための会議を開催

連携

ワンチームとやま連携推進本部WGにおける協議
(市町村)

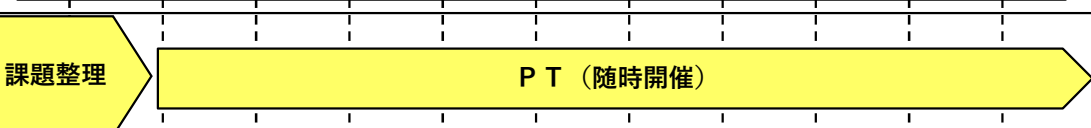
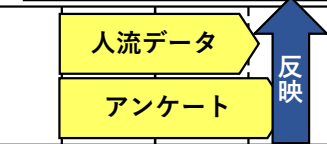
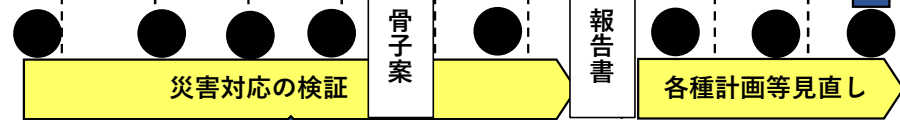
災害対応検証PT(庁内)による検証

地域防災計画をはじめ各種計画
(受援・輸送・BCP等)の見直し

随時見直し

全体スケジュール（案）

項目	内容	2024（R 6）年度												●：会議		
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
①富山県防災会議	地域防災計画の改定等															
②地域防災計画	国の防災基本計画に沿い改定 能登半島地震の検証結果も反映															
③災害対応検証事業 （有識者会議）	初動対応・応急対策等を検証															
④災害対応検証事業 （人流データ等）	県民の避難行動を分析 県民アンケートによる意識調査															
⑤ワンチーム とやま推進会議	R6新規連携項目「災害対応・ 危機管理体制の連携強化」															
⑥災害対応検証P T （庁内P T）	「災害対応検証P T」を新設 課題整理し対応策を検討・共有															



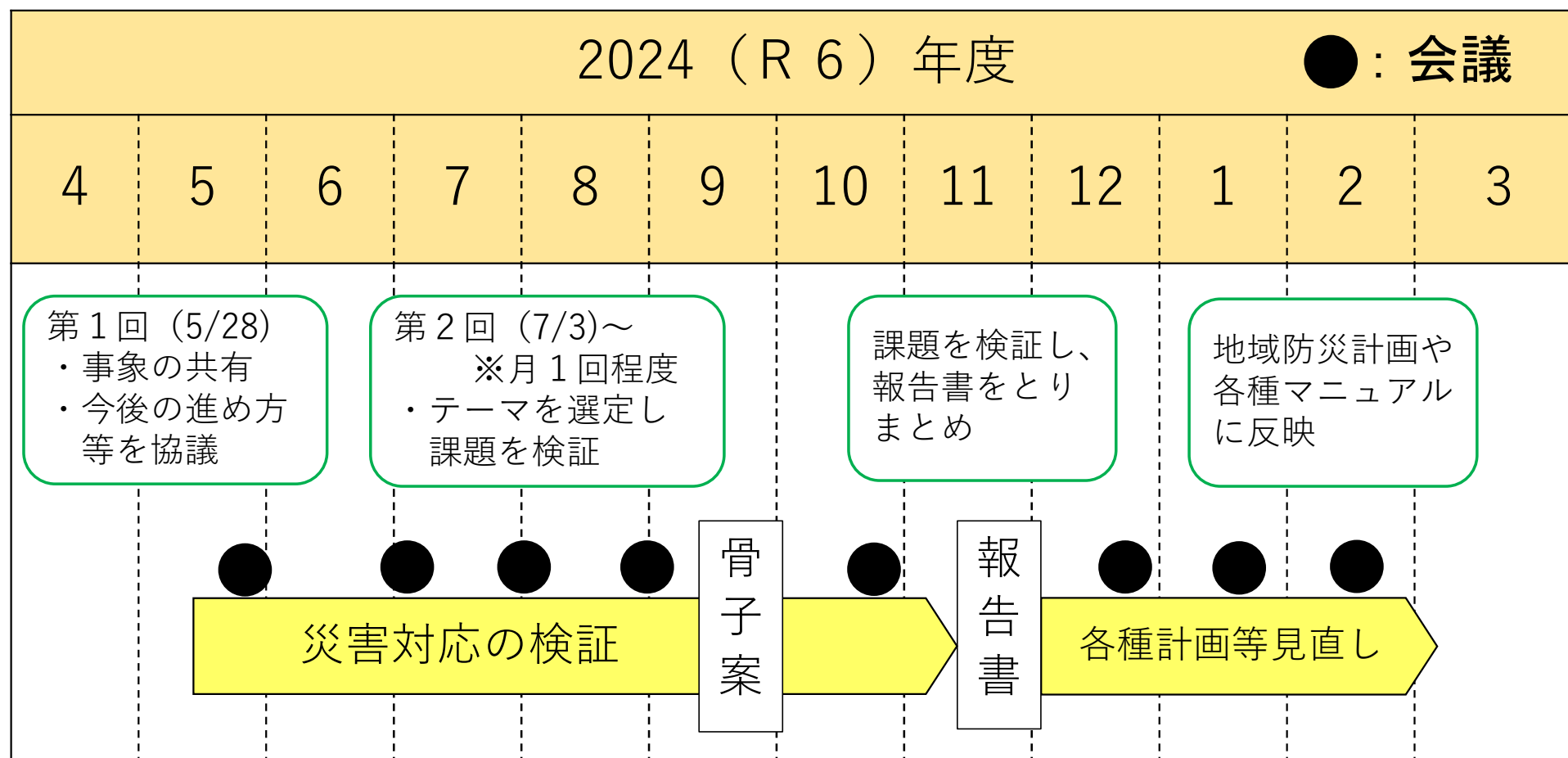
能登半島地震に係る災害対応検証会議

- 能登半島地震では、津波警報発表時の避難行動や避難所の開設など、様々な面で課題が浮きぼりになった。
- 災害対応を検証し、富山県地域防災計画等の見直しに反映することで、防災体制の強化充実を図る。

（１）検証のポイント

- ・ 今回の災害から得た経験、教訓を今後の災害対応に活かしていく。
- ・ 石川県で課題となったことも、本県の今後の対応に活かせるものは検証する。
- ・ 災害対応に有効なデジタル技術の活用にも着目して検証する。

(2) スケジュール (案)



(3) 検証項目 (案)

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| ① 情報収集・伝達 | ⑨ ボランティア |
| ② 広報活動 | ⑩ 災害廃棄物 |
| ③ 避難行動 | ⑪ 事前の備え(住民への啓発、上下水道・住宅耐震化、液状化対策等) |
| ④ 避難所開設・運営 | ⑫ 孤立集落対策 |
| ⑤ 物資の備蓄・支援 | ⑬ 道路啓開計画 |
| ⑥ 飲料水・生活用水の確保 | ⑭ 行政の経験蓄積・共有 |
| ⑦ 災害対策本部の体制・運営 | |
| ⑧ 県・市町村・関係機関の連携 | |

（４）能登半島地震で顕在化した主な課題

- ・県内各地で渋滞が発生。
- ・自治体が発信する災害情報が伝わらない。（特に高齢者）
- ・県民にハザードマップや避難方法が理解されていない。
- ・開設前に避難者が到着した避難所が多かった。
- ・自主防災組織が十分に機能しなかった。
- ・避難所の備蓄が不足した。（食料等を持参されない方が多い）
- ・断水が長期化した場合、トイレや入浴などの住民生活への影響が大きい。
- ・初動時は市町村のマンパワーが不足する。
- ・罹災証明発行のノウハウとマンパワー不足により、他自治体の応援を要した。
- ・初動時において市町村からの情報収集が十分でなかった。
- ・事前の備え（住民への啓発や住宅の耐震化など）が十分でなかった。

人流データの分析

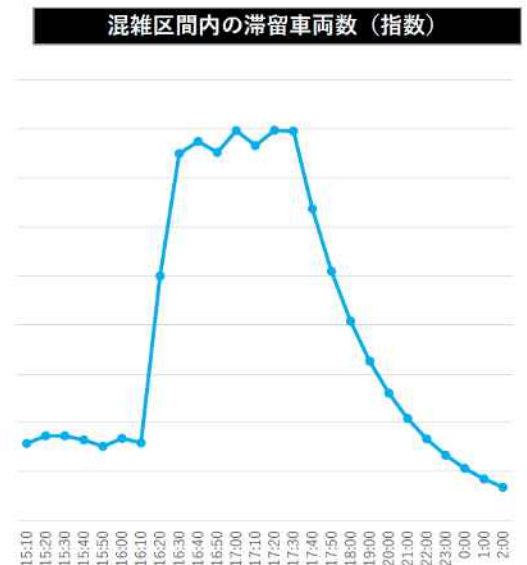
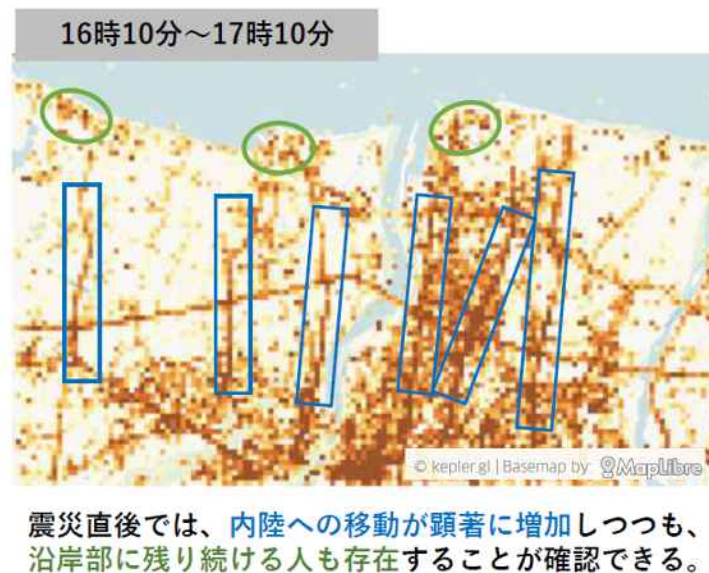
【目的】

- ・ 人流データ（GPS等に基づき取得される位置情報）を活用して津波警報発表時の住民避難行動を検証することにより、避難行動の課題を明らかにするとともに、避難計画見直し等の基礎データとして活用する。

【事業概要】

- ・ 県内における発災時の人流データ抽出
 - ・ 分析レポートの作成
- <分析項目例>
- 住民の避難経路・避難先
 - 移動手段、道路の渋滞箇所
 - などを人流データに基づき分析

【アウトプットイメージ】



県民アンケートの実施

【目的】

- ・ 能登半島地震発生時の避難行動や県民の防災意識の変化などを把握する
- ・ 県民自らに発災当日の行動を振り返り、確認を促すとともに、その結果を災害対応の検証に活用する
- ・ 住民がよりの確な避難行動がとれるよう、県地域防災計画をはじめ各種計画やマニュアルの見直しに繋げる

【調査概要】

- ・ 調査地域：県内全域
- ・ 調査対象：満18歳以上の男女
- ・ 標 本 数：3,000（層化二段無作為抽出法）
- ・ 調査期間：6月～（予定）2、3週間程度
- ・ 調査方法：郵送調査（WEBによる回答も可）

【設問内容】 約40問

能登半島地震時の避難行動等に 係る項目（30～35問）	R4調査からの防災意識の変 化に係る項目（5～10問）
・ 避難の有無と理由 ・ 移動手段（徒歩、車）の理由 ・ 情報の入手先 ・ 避難時の持ち出し品 ・ 避難所で困ったこと 等	・ 災害対策に関する意識 ・ 災害時の避難に関する意識

【設問例】

問 あなたはなぜ避難しましたか（複数選択可）

1. 津波警報が出たから（津波が来ると思ったから）
2. 余震が怖かったから
3. 自分がいた場所に被害が出て留まるのが危険だったから
4. 水道等のライフラインが途絶したから
5. 家族や近所の人（周りにいた人）に促されたから
6. テレビやラジオで繰り返し避難が呼びかけられていたから
7. 自宅で夜を過ごすのが怖かったから
8. 夜間に避難するような事態を避けたかったから
9. 周りが避難していたから
10. その他（ ）

⋮

問 あなたご自身の防災対策は進んでいると思いますか

1. じゅうぶん進んでいる
2. どちらかといえば進んでいる
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば進んでいない
5. 進んでいない